

## 日本文化週間の開催

在イラン日本国大使館は2012年10月25日（木）から27日（土）まで、テヘラン市文化芸術機構と共催でアラスバーラーン文化センターにて日本文化週間を開催しました。多様な日本文化紹介プログラムが実施され、会場はいずれも満席で、イラン人の人々の日本文化に対する関心の高さが示されました。

開会式にはアラグチ・アジア大洋州 CIS 担当外務次官及びホラキアン・テヘラン市文化芸術機構長が出席しました。高岡臨時代理大使はスピーチにおいて、日本とイランは共に地震災害に多く見舞われるという厳しい巡り合わせにあり、これに立ち向かうために協力していることを指摘、東日本大震災に際して当時、駐日大使だったアラグチ次官が往復15時間かけて被災地に支援物資を届けたこと及び、駐日イラン公使であったシャリフイー人権・女性問題局長及びアラグチ大使夫人が、震災の1ヶ月後に被災地でトマトの煮込み料理の炊き出しを行い、何日も暖かい料理を食べていなかった被災者を助けたことに感謝の意を述べました。また、2012年8月の東アゼルバイジャン州の地震に際しては、日本から総額147万米ドルの緊急支援が実施され、駒野大使（当時）と官野日本人会会長が現地を訪れたことを紹介しました。

開会式の後、「メフルナバー」が日本のさくらさくらを演奏し、日本人の心情を深く理解した上でイラン風に表現しました。続いて剣道・居合の実演が行われ、会場を静寂と緊張で満たしました。最後に日本からこの文化週間のために訪伊した三味線と尺八のグループである「Chikudo & Friends」のコンサートが行われ、日本人の宗教心が込められた音楽は聴衆の深い感動を呼び起こしました。同グループが演奏したイラン国歌に会場は総立ちとなりました。

期間中、「Chikudo & Friends」のコンサートの他、イラン人とテヘラン在住日本人のボランティアにより、26日には、世界児童研究機関による日本の演劇の実演、折り紙、書道、漫画、浴衣を着て記念撮影などのイラン人の子供向けの日本文化紹介プログラムが実施され、27日には生け花、在留邦人によるセタール及びオカリナのコンサート、うどん打ち、茶道の実演が行われました。

ここに文化週間開催のため快くご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。



